

## 自己評価報告書

平成23年 5月 1日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008年～2011年

課題番号：20530751

研究課題名(和文) 二極化する若年移行期と若者支援政策の日欧比較～社会関係資本に着目して

研究課題名(英文) Comparative study between Japan and European countries on polarization of youth transitions and youth policies; How 'social capital' works on youth transitions?

研究代表者

平塚 真樹 (HIRATSUKA MAKI)

法政大学・社会学部・教授

研究者番号：10224289

研究分野：教育学、教育政策

科研費の分科・細目：教育学、教育学

キーワード：若年移行期、若年支援政策、二極化、社会関係資本、個人化

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、1990年代以降取り組まれている若者支援政策が、移行期の構造的変容という状況にとって、効果的に作用しているか否かについて、二極化と社会関係資本という2つのキーワードを手がかりに検討することにある。

具体的には、①若年移行期の変容が各国共通して移行期の二極化として進行しつつあることを明らかにし、その上で、②1990年代以降日欧各国で着手されてきた若年支援政策が、この二極化にどう作用しつつあるかについて、特徴的な数カ国(日本、英国、フィンランド、アイルランド)を対象として比較検討する。

比較検討に際してとりわけ、③支援における「社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)」の果たす役割に着目したいと考えている。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 調査活動および既存の調査分析については、まず量的調査については、代表者が他で参加している長期継続大量調査(大都市における若年者の教育・職業移行過程とキャリア形成に関するコーホート調査)、および各国における関連の量的調査(Scottish School Leavers' Survey、他)、各国における関連諸統計を通して、若年移行期における二極化の進行、およびその過程で社会関係資本が果たしている作用・機能の検討を進める予定であったが、この作業を現在実施途上にある。

検討を通じて明らかになりつつあるのは、「二極化」が進行しつつある状況が共通して起こりながらも、その現れは、北欧とそれ以外で異なる面があること、二極化の進行過程

に「社会関係資本」が関与していることについては、各国それぞれで関心・注意が向けられつつあることなどである。

(2) また、質的調査については本研究でオリジナルに取り組む予定であったが、これも当初の予定通り、日本、イギリス、フィンランド、アイルランドを主たる対象として、現在実施途上にある。具体的には、各国における青少年援助(youth work)の政策・現場、および移行的労働市場(transitional labour market)やそれに準ずる政策・現場をフィールドとし、政策担当者および現場スタッフからのヒアリングを実施途上にある。移行的労働市場とは、若年期移行制度からドロップアウトした若者を対象とした、雇用、社会福祉、教育・訓練の接点にあたる自立援助の制度である。

研究途上で明らかになりつつあるのは、困難な立場に置かれた若者への援助政策においては、各国とも個別化(personalised)支援が台頭しつつあるが、現場においてその意味が認知されているのは、むしろ関係形成、social capitalsの豊富化に寄与する働きかけであるとのギャップが存在することである。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

フィンランドをのぞく三カ国については統計、関連する量的調査データの収集をおよそ終え、また四カ国いずれについても困難をもつ若者支援機関・関連政策担当者からのヒアリングに一定の目処をつけられた。

ただし、とりわけ日本以外については、収集データの分析・評価について、今後現地研究者への意見聴取を実施する必要があると考えている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

本年度の調査研究で、以下の実施を予定している。

(1) フィンランドにおける量的調査データ、および関係統計データ収集

(2) 英国、フィンランド、アイルランドにおける現地研究者へのデータ分析・評価に関する意見聴取

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

① 平塚眞樹、EUにおける若者政策の研究動向、教育政策学会年報、17号、168—174頁、2010年、査読無

② 平塚眞樹、欧州における若者政策をめぐる論争軸、人間と教育、64号、98—105頁、2009年、査読無

〔学会発表〕(計3件)

① 平塚眞樹、青年の自立とキャリア教育～政策の‘個人化’をどう乗り越えるのか、唯物論研究協会 第33回研究大会、2010年10月17日、一橋大学

② 平塚眞樹、英国における若者政策の展開とユースワークの変容、日本教育学会第69回大会、2010年8月22日、広島大学

③ 平塚眞樹 ‘Youth Work, Youth Policy and Youth Research in Japan ~ New polarization among youth’、 “Reflective youth work - linking theory and praxis”, Symposium、2008年7月2日、ヘルシンキ(フィンランド)

〔図書〕(計2件)

① 平塚眞樹、『労働再審1 転換期の労働と<能力>』のうち「若年移行期の変容とコンピテンシー・教育・社会関係資本」を分担執筆、2010年、205—221頁、全285頁、大月書店

② 平塚眞樹、『生きる意味と生活を問い直す—非暴力を生きる哲学』のうち、「おとなへの“わたり”の個人化—英国における若年支援政策をめぐる」を分担執筆、2009年、180—202頁、全273頁、青木書店